

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年8月9日

【四半期会計期間】 第47期第1四半期(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

【会社名】 ジーエルサイエンス株式会社

【英訳名】 GL Sciences Inc.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 外 丸 勝 彦

【本店の所在の場所】 東京都新宿区西新宿六丁目22番1号

【電話番号】 03(5323)6633(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 管理本部長 山 下 俊 一

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区西新宿六丁目22番1号

【電話番号】 03(5323)6633(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 管理本部長 山 下 俊 一

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第46期 第1四半期 連結累計期間	第47期 第1四半期 連結累計期間	第46期
	自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日	自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (千円)	3,748,117	3,601,506	16,740,279
経常利益 (千円)	143,813	66,320	1,133,452
四半期(当期)純利益 (千円)	68,618	11,276	525,500
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	165,546	207,257	993,803
純資産額 (千円)	15,035,478	15,896,942	15,862,183
総資産額 (千円)	22,332,594	22,805,577	22,841,903
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	13.38	2.20	102.43
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	58.9	60.9	60.9

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

なお、主要な関係会社につきましては、平成25年4月に当社の自動認識事業を分社化したジーエルソリューションズ株式会社を連結子会社としております。

この結果、平成25年6月30日現在では、当社グループは、当社、子会社7社及び関連会社2社により構成されることとなりました。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものです。

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)におけるわが国経済は、新政権の経済政策や金融政策などを背景に、円高是正や株式市場の活況など景気回復の兆しが見られましたが、新興国の景気減速懸念などにより、引き続き不透明な状況が続きました。

このような経営環境下におきまして、売上高につきましては、自動認識事業が前年同期を大きく上回ることができましたが、分析機器事業、半導体事業ともに下回ったため、グループ全体では、3,601百万円(前年同期比 3.9%減)となりました。

損益につきましては、売上高の減少により、前年同期に比べ大幅な減益となり、営業利益は 37百万円(前年同期比 75.6%減)、経常利益は 66百万円(前年同期比 53.9%減)、四半期純利益は 11百万円(前年同期比 83.6%減)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### (分析機器事業)

分析機器事業におきましては、キャンペーン、全面リニューアルした総合カタログNo. 30の発行などにより、積極的な拡販活動を展開しましたが、売上は前年同期を下回る結果となりました。

消耗品につきましては、自社製の液体クロマトグラフ(LC)用充填カラム、固相抽出、LC用一般部品は堅調に推移しましたが、自社製のバルブ、配管材料などのガスクロマトグラフ(GC)用一般消耗品や他社製のLC用/GC用一般消耗品が前年同期を下回り、前年同期比微増となりました。

装置につきましては、自社装置では水質分析装置が好調に推移しましたが、バイオ市場向け大型装置やLC装置が伸びず、他社装置につきましても、高額装置が前年同期を大きく下回り、前年同期比減収となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は 2,257百万円(前年同期比 6.0%減)、営業損失は 30百万円(前年同期は営業利益 4百万円)となりました。

#### (半導体事業)

半導体業界におきましては、スマートフォンやタブレット端末などモバイル端末の需要拡大は続いているものの、液晶テレビ等のデジタル家電やパソコンには需要の回復が見られず低迷しました。

このような環境下、半導体製造プロセスの前工程で消耗品として使われております当事業の製品は、国内市場での需要は依然として弱く、アジアや米国などの外需に依存する状況が続きました。これにより受注は前期末から低迷し、当第1四半期に入ってから回復の兆しが見られず、売上は前年同期比減収となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,116百万円(前年同期比6.2%減)、営業利益は56百万円(前年同期比63.9%減)となりました。

#### (自動認識事業)

自動認識事業におきましては、当事業が注力しているアクセスコントロール関連(警備機器、勤怠管理機器、入退室管理機器)に、さまざまな業界からの引き合いも増えてきており、市場の広がりが見えてきました。

このような状況の中、「モジュール」は、昨年6月から発売したアミューズメント向け製品が当第1四半期に入っても順調に売上を伸ばしました。「完成系製品」は、オフィス、マンション向け壁付けリーダー「XR01・XR10シリーズ」や、出席管理、来場者管理、電子広告に最適なインテリジェントターミナルCENTi0「XP35C6シリーズ」が伸びました。「ソリューション」は前年同様、大口工事案件に乏しく小口のメンテナンスの受注に留まりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は228百万円(前年同期比44.9%増)、営業利益は10百万円(前年同期は営業損失6百万円)となりました。

#### (2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発活動の金額は189百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

##### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	22,380,000
計	22,380,000

##### ② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年8月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,595,000	5,595,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は100株でありま す。
計	5,595,000	5,595,000	—	—

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年6月30日	—	5,595,000	—	1,207,795	—	1,751,219

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 464,800	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,129,100	51,291	—
単元未満株式	普通株式 1,100	—	—
発行済株式総数	5,595,000	—	—
総株主の議決権	—	51,291	—

(注) 1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式50株が含まれております。

2 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成25年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

② 【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ジーエルサイエンス株式会社	東京都新宿区西新宿 六丁目22番1号	464,800	—	464,800	8.31
計	—	464,800	—	464,800	8.31

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人A&Aパートナーズによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,098,448	5,340,217
受取手形及び売掛金	※ 5,803,673	※ 5,209,740
商品及び製品	879,600	912,914
仕掛品	810,975	932,580
原材料及び貯蔵品	1,172,574	1,192,781
その他	573,285	526,944
貸倒引当金	△2,477	△2,266
流動資産合計	14,336,079	14,112,911
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,418,965	2,429,698
土地	3,216,888	3,216,888
その他（純額）	1,424,995	1,544,381
有形固定資産合計	7,060,849	7,190,968
無形固定資産		
投資その他の資産	91,474	91,918
その他	1,355,917	1,412,320
貸倒引当金	△2,417	△2,541
投資その他の資産合計	1,353,499	1,409,779
固定資産合計	8,505,824	8,692,666
資産合計	22,841,903	22,805,577
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※ 2,206,356	※ 2,107,084
短期借入金	2,314,592	2,424,362
賞与引当金	343,537	138,443
役員退職慰労引当金	26,360	—
その他	759,737	675,738
流動負債合計	5,650,584	5,345,627
固定負債		
長期借入金	819,220	1,004,272
退職給付引当金	263,891	274,856
役員退職慰労引当金	40,387	44,693
その他	205,637	239,184
固定負債合計	1,329,136	1,563,006
負債合計	6,979,720	6,908,634

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,207,795	1,207,795
資本剰余金	1,819,711	1,819,711
利益剰余金	11,603,686	11,461,058
自己株式	△508,907	△508,907
株主資本合計	14,122,285	13,979,657
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	89,382	90,601
繰延ヘッジ損益	△10,071	4,888
土地再評価差額金	△330,315	△330,315
為替換算調整勘定	30,677	144,711
その他の包括利益累計額合計	△220,326	△90,113
少数株主持分	1,960,223	2,007,398
純資産合計	15,862,183	15,896,942
負債純資産合計	22,841,903	22,805,577

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
 【四半期連結損益計算書】  
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	3,748,117	3,601,506
売上原価	2,400,700	2,321,063
売上総利益	1,347,417	1,280,442
販売費及び一般管理費	1,192,642	1,242,737
営業利益	154,774	37,704
営業外収益		
受取配当金	8,940	9,478
為替差益	—	14,501
その他	21,225	16,371
営業外収益合計	30,165	40,351
営業外費用		
支払利息	10,262	8,048
為替差損	29,045	—
その他	1,818	3,687
営業外費用合計	41,126	11,735
経常利益	143,813	66,320
特別損失		
固定資産除却損	117	894
特別損失合計	117	894
税金等調整前四半期純利益	143,695	65,425
法人税、住民税及び事業税	20,885	25,236
法人税等調整額	7,458	18,069
法人税等合計	28,343	43,306
少数株主損益調整前四半期純利益	115,352	22,119
少数株主利益	46,733	10,843
四半期純利益	68,618	11,276

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	115,352	22,119
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△53,390	△799
繰延ヘッジ損益	△4,218	14,959
為替換算調整勘定	102,604	162,461
持分法適用会社に対する持分相当額	5,199	8,515
その他の包括利益合計	50,194	185,137
四半期包括利益	165,546	207,257
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	90,866	141,489
少数株主に係る四半期包括利益	74,680	65,768

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
(連結の範囲の重要な変更) 当第1四半期連結会計期間より、新たに設立したジーエルソリューションズ株式会社を連結の範囲に含めております。

(四半期連結貸借対照表関係)

※ 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第1四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
受取手形	133,343千円	153,696千円
支払手形	258,076 "	261,497 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)及び負ののれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
減価償却費	142,234千円	149,570千円
負ののれんの償却額	280 "	280 "

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	153,905	30	平成24年3月31日	平成24年6月25日	利益剰余金

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月25日 定時株主総会	普通株式	153,904	30	平成25年3月31日	平成25年6月26日	利益剰余金

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	分析機器事業	半導体事業	自動認識事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,401,407	1,189,332	157,377	3,748,117	—	3,748,117
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	19,790	9,944	29,735	△29,735	—
計	2,401,407	1,209,123	167,322	3,777,853	△29,735	3,748,117
セグメント利益 又は損失(△)	4,146	156,942	△6,610	154,478	295	154,774

(注) 1 調整額は、セグメント間取引消去によるものです。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	分析機器事業	半導体事業	自動認識事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,257,469	1,116,026	228,010	3,601,506	—	3,601,506
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,264	17,934	194	19,392	△19,392	—
計	2,258,733	1,133,960	228,205	3,620,899	△19,392	3,601,506
セグメント利益 又は損失(△)	△30,609	56,669	10,919	36,979	725	37,704

(注) 1 調整額は、セグメント間取引消去によるものです。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(企業結合等関係)

当第1四半期連結会計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

共通支配下の取引等

(1) 取引の概要

① 対象となった事業の名称及びその事業の内容

事業の名称：自動認識事業

事業の内容：RFID機器の開発及び製造販売

② 企業結合日

平成25年4月1日

③ 企業結合の法的形式

当社を分割会社とし、新たに設立するジーエルソリューションズ株式会社に、当社の自動認識事業を承継させる新設分割

④ 結合後企業の名称

ジーエルソリューションズ株式会社(当社の連結子会社)

⑤ その他取引の概要に関する事項

当社は自動認識事業を分社化することにより、独立会社として意思決定の迅速化及び経営責任体制の明確化を図るとともに、限られた経営資源の最適化を進め、コスト競争力・収益力の強化を目指しております。

(2) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(1 株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額(円)	13.38	2.20
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	68,618	11,276
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	68,618	11,276
普通株式の期中平均株式数(株)	5,130,156	5,130,150

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年8月5日

ジーエルサイエンス株式会社

取締役会 御中

監査法人A&Aパートナーズ

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 木 間 久 幸 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 町 田 眞 友 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているジーエルサイエンス株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ジーエルサイエンス株式会社及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。